

公立中学校の教科指導における「多様な学びの場の連続性」実現のためのインターフェイス —「教科担任」という専門性に着目して—

下村 京子(長野県上田市立第一中学校)

0 確認事項

(1) 特別な配慮を必要とする生徒

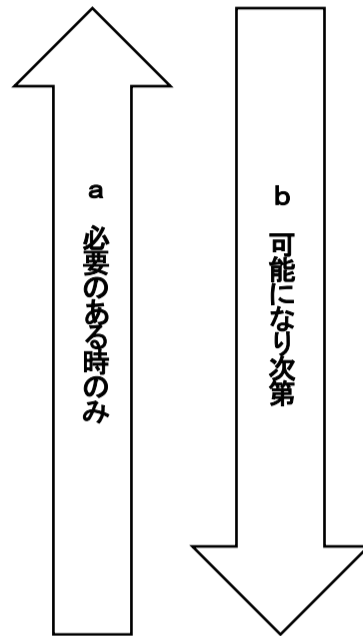
『中学校学習指導要領』平成29年告示

- 1 障害のある生徒など
- 2 海外から帰国した生徒などの学校生活への適応や、日本語の習得に困難のある生徒に対する日本語指導
- 3 不登校生徒への指導
- 4 学齢を経過したものへの配慮

(2) 多様な学びの場

①義務教育における多様な学びの場の連続性(文科省)

自宅・病院における訪問教育
特別支援学校
特別支援学級
通級による指導
専門的スタッフを配置して通常の学級
専門家の助言を受けながら通常の学級
ほとんどの問題を通常の学級で対応



②「JSL評価参照枠(全体)」(文科省)

日本語指導教室	1	学校生活に必要な日本語の習得が進む	初期支援段階
	2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む	
	3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる	個別学習支援段階
在籍学級	4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にもある程度参加できる	
	5	教科内容と関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる	
	6	教科内容と関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる	

1 「特別支援学級」と「日本語指導教室」における共通の課題

- (1) 通常の学級・在籍学級とは別の場所で学ぶこと ⇔ 「通常学級」は文字通り「全ての生徒」が学んでいる場所
- (2) 別の場所で学ぶことで、教科学習の内容が「要点的」にならざるを得ないこと ⇔ 「①安定した授業時数の確保
②「教科の」専門性からの個別指導と「特性に対する」専門性からの個別指導
- (3) 特に二重線部において、矢印の「a」の向きの動きに対して「b」の向きの動きが「重い」ことが多いこと ※「個別指導」はスモールステップ

2 「教科の」専門性と「特性に対する」専門性のインターフェイス(5教科のみ抜粋)

教科	学習指導要領	学習指導要領解説		教育支援資料			JSLカリキュラム	
	目標(育成する資質・能力)	知識及び技能 →環境調整で合理的配慮が可能	思考力, 判断力, 表現力等 →指導者・支援者で合理的配慮が変化	ASD	ADHD	LD	知識及び技能 →環境調整で合理的配慮が可能	思考力, 判断力, 表現力等 →指導者・支援者で合理的配慮が変化
国語科	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力	・比較的に長い文章を書くなど一定量の文字を書くこと ・声を出して発表すること、人前で話すことへの不安を抱えている	・自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりすること	・数量や言葉等の理解が部分的であったり偏っていたりする	・注意の集中を継続することが苦手	・[定義] 全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示すもの →特異な認知の仕方を考慮する	・日本語を母語とする生徒に比して「話し言葉」に十分触れていない状態では「書き言葉」を通して学ぶなければならない。	・メタ言語能力を身に付けること (下村注: 国→文章レベルのメタ言語能力、他教科→国語レベルのメタ言語能力) ※「ただ、形式的な操作に達するのは中高生のすべてではなく、むしろかなりの割合が成人期でも形式的な操作の課題が十分解かないことが明らかにされており、多くの研究がこの結果を支持しています。」(文科省『生徒指導要領』第3章 第3節1(2)②より)
社会科	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民権的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎		・地図等の資料から必要な情報を見つけ出したり、読み取ったりすること ◎社会的事実等に興味・関心が持てない ・学習過程における動機付けの場面において学習上の課題を見いだすこと ・方向付けの場面において、予想を立てること ・情報収集や考察、まとめの場面において、どの観点で考えるのかが難しい				・日本社会についての知識が豊かではない	・社会科で学ぶ知識や概念を表す言葉は、日常生活で用いる言葉と大きく異なる
数学科	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力		・文章を読み取り、数量の関係を、文字式を用いて表すこと ・空間図形のもつ性質を理解すること				・数学科特有の言語表現	・各国による授業の進め方や授業に対する考え方の違い(「数学は世界の共通語」であるために授業スタイルの違いが出やすい)
理科	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことを通して、自然の事物・事象を科学的に探究するために必要な資質・能力	・実験を行う活動において、実験の手順や方法を理解すること ・燃焼実験のように危険を伴う学習活動における危険把握						・理科の学びに必要な基本的な思考や活動で得られた経験を科学的な理解と結びつけることを日本語で行わなければならないこと。
外国語科	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力		・(英語の語彙には、発音と綴りの関係に必ずしも規則性があるとは限らないものも多く) 明確な規則にこだわって強い不安や抵抗感を抱いてしまうこと	思考力, 判断力, 表現力等	環境調整	思考力, 判断力, 表現力等		・日本語で英語学習にかかわる概念を把握させる際に「母語ではその概念がない」ということがあり得ること。

3 結果と考察 教科の専門性からのスモールステップ化と「特性」に対する専門性からのスモールステップ化は、ともに指導要領の目標に基づくことで連続性が保障される。